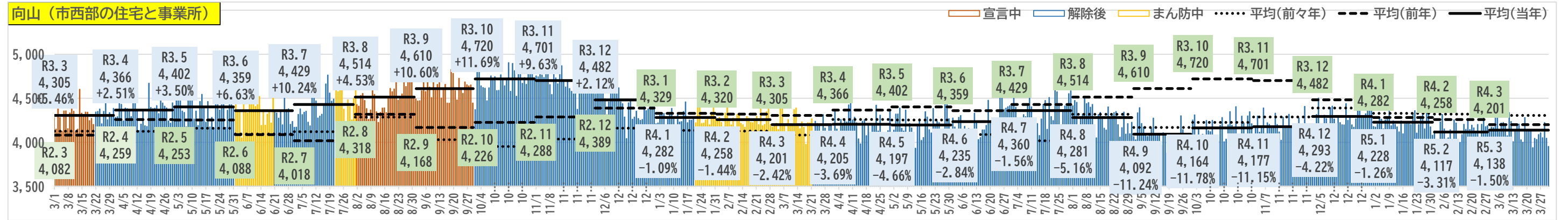
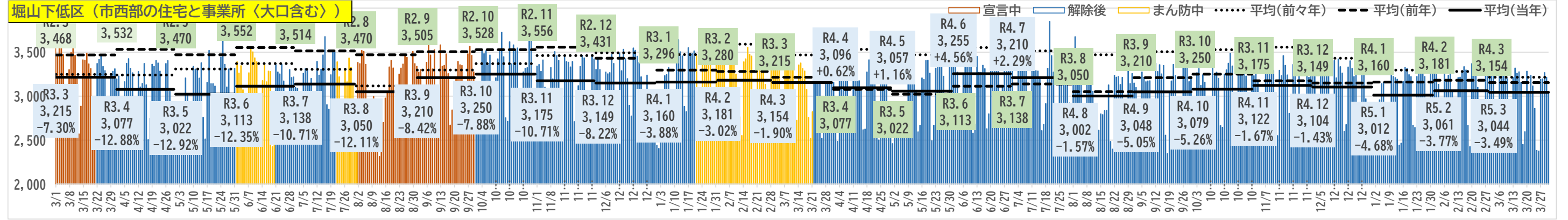


主要な配水区の配水量の比較2



令和3年度 南地区から西地区にわたる配水区です。多くの住宅地が含まれるとともに、国道沿いの店舗や事業所なども含みます。4月以降は、コロナの影響により家庭での需要が増えていると思われ、配水量が一昨年度（コロナ前）より増えています。また、昨年度の4月以降は、一昨年度より増えている月が多くみられますが、今年度は11月までそれをさらに上回る状況が続いています。12月も同様の状況ですが、増加率は分析開始以来最低となり、1月には観測開始後初めて前年を下回っています。この傾向は、3月まで続いています。

令和4年度 R4.1月から14か月連続で前年を下回っています。昨年度比の減少幅は、10月に最大となりましたが、9月以降は一昨年も下回り、家庭での需要減少が続いていることに加え、業務用の減少も影響していることが推測できます。



令和3年度 西地区の小田急線より北側にわたる配水区であり、堀山下周辺の大口需要者が含まれています。観測開始後すべての月で前年を下回っています。令和3年の値は、取水場からの取水量を調整したことにより200m³程度の自然減がありますが、それを加味しても、一部の大口需要者で昨年より生産活動が低下している状況が続いていることが推測できます。ただし、12月以降の減少幅は、徐々に小さくなりつつあります。

令和4年度 観測開始以来初めて前年を上回った4月から4か月連続で前年を上回りましたが、8月は、5か月ぶりに前年を下回り、2月まで続いています。また、取水量の調整分以上に一昨年を下回る状況が続いていることは、コロナ禍の影響とはいえ、原材料や燃料高、部品不足などにより生産活動が停滞していることが推測できます。

※ 平成31年3月から令和2年2月までのデータは、クラウド監視以前のデータであり誤差が含まれている場合があります。